

社会科学学習指導案

公開学級 第3学年 1組 (36人)

場所 南舎2階 3年1組教室

授業者 笠井 慎吾

1 単元名

現代の民主政治と社会 「地方自治と私たち」

2 本時のねらい

揖斐川中学校をより生活しやすい学校にするための複数の要望案を「効率と公正」の視点から多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断・表現)

3 本時の展開 (6/7)

過程	活動内容	研究に関わる手立て
導入	<ol style="list-style-type: none"> 全校生徒からのアンケート結果と前時までに考えた複数の要望案について確認する。 学習課題を設定する。 	
課題	<p>揖斐川中学校をより生活しやすい学校にする要望案を、効率と公正の視点から順位づけしよう。</p>	
展開	<ol style="list-style-type: none"> <p>効率と公正の視点から要望案について個人で考え、座標軸に位置付け、優先順位をつける。</p> <p>効率…より少ない費用で大きな効果はあるか →要望が通る可能性は高いか</p> <p>公正…全校やこれから入学する生徒にとってよいものであるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「外のトイレを洋式化する」という案は、校内のトイレが洋式化されたことを考えると要望が通る可能性がある。体育の授業や部活動で多くの生徒が使うし、私も外のトイレを使うことをためらうことがある。また、他の案と比べて多くの生徒が望んでいることから優先順位を1位にした。 「黒板をホワイトボードに変更する」という案は、多くの生徒が望んでいるが、そのメリットが少ないと考えたので優先順位を低くした。ホワイトボードは角度によって、光が映り込んで後ろの席の子は見づらくなるし、コスト面でもチョークよりも高くなる。マーカーはチョークのように粉が出ないという良さはあるが、お金を出してホワイトボードに変更するメリットは少ないと考える。 「廊下を広くする」という案について、たしかに休み時間など廊下が狭くて通りにくいなど感じることはある。しかし、大規模な工事が必要なことを考えると、現実的ではないと考える。私たちが廊下の使い方を工夫すれば改善できると考えるので、優先順位を低くした。 小グループで交流し、グループの優先順位をつける。また、必要に応じて要望案を再構成する。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自分たちの学校生活をよりよいものにする学習活動の設定 (生徒の主体性を引き出す手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の終末に「より生活しやすい学校にするための要望案を考え、町に提案する」学習を設定することで、自分事として学習に向かう姿が期待でき、生徒の主体性を引き出す。 地方自治の特徴の一つである“住民の意思を強く政治に反映させる仕組み”を体感することで、主体的に行政に参加しようとする態度を養う。 </div>
終末	<ol style="list-style-type: none"> 全体で交流し、学習を振り返る。また、要望案に関わって生活しやすい学校であり続けるために自分たちができることを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 「体育館に空調設備を設置すること」を要望したい。夏場は暑すぎて外でも体育館でも体育の授業が実施できず、部活動でも熱中症の心配がある。健康広場の体育館では空調設備が設置されていることから要望が通る可能性がある。また、体育館に空調設備を設置することは今後揖斐川中学校に入学する生徒のことを考えてもメリットは大きいと考える。一方で空調設備を設置することで電気代が大きくなるため、私たちが教室のエアコンや電気を無駄なく使うなど、自分たちの生活も見つめ直していきたい。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>効率と公正の視点から要望案を優先順位付けする学習活動の設定 (生徒の相互作用を生み出す活動)</p> <p>要望案を「効率と公正」の視点から順位付けする活動を位置づけることで、一人ひとりが根拠に基づいて自分の考えを表現することができ、生徒相互の対話的な学びを生み出す。「効率→要望が通る可能性は高いか」「公正→全校にとって良いもの」として具体的に考えることで活発に交流ができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 終末に「生活しやすい学校であり続けるために自分たちができること」を考える場を設定することで、要望した側の責任について捉えられるようにする。

4 単元指導計画

時数	活動内容	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの地方公共団体の仕事について調べる。 ・『私たちは地方自治にどのように関わっていけばよいのか』という単元を貫く課題を設定する。 	<p>地方公共団体の仕事に関心を持ち、地方自治について意欲的に追究しようとする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県や揖斐川町の政治の仕組みを、国の政治の仕組みと比較する。 	<p>地方自治の政治の特徴や仕組みを、国の政治の仕組みとの違いを明確にして理解する。</p> <p>【知識・技能】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が「ふるさと納税」に力をいれている理由を、地方公共団体の財政に関する諸資料をもとに考える。 ・財源を国に依存している地方公共団体の課題と努力について捉える。 	<p>地方公共団体の財政面における課題と、その解決のための努力を捉える。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声を生かした政治を実現するために揖斐川町で行われている取組について調べる ・中学生も地方公共団体の政治に参加することができることを知る。 	<p>住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解する。</p> <p>【知識・技能】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・揖斐川中学校をより生活しやすい学校にするための要望案を考える。 	<p>自分たちの生活やアンケートの結果を踏まえ、より生活しやすい学校にするための要望案を粘り強く考える。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
6 本時	「3 本時の展開」を参照	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・町に提出する提案書を作成し、提案が通ると学校生活がどのように変わるのか具体的に考える。 	<p>自分たちの学校生活をよりよくするために、主体的に提案書作成に取り組む。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>提案の根拠を示し、その効果を具体的に表現する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

5 研究に関わって

<研究内容2>

本時の手立て・活動 と 期待する効果

①自分たちの学校生活をよりよいものにする学習活動の設定

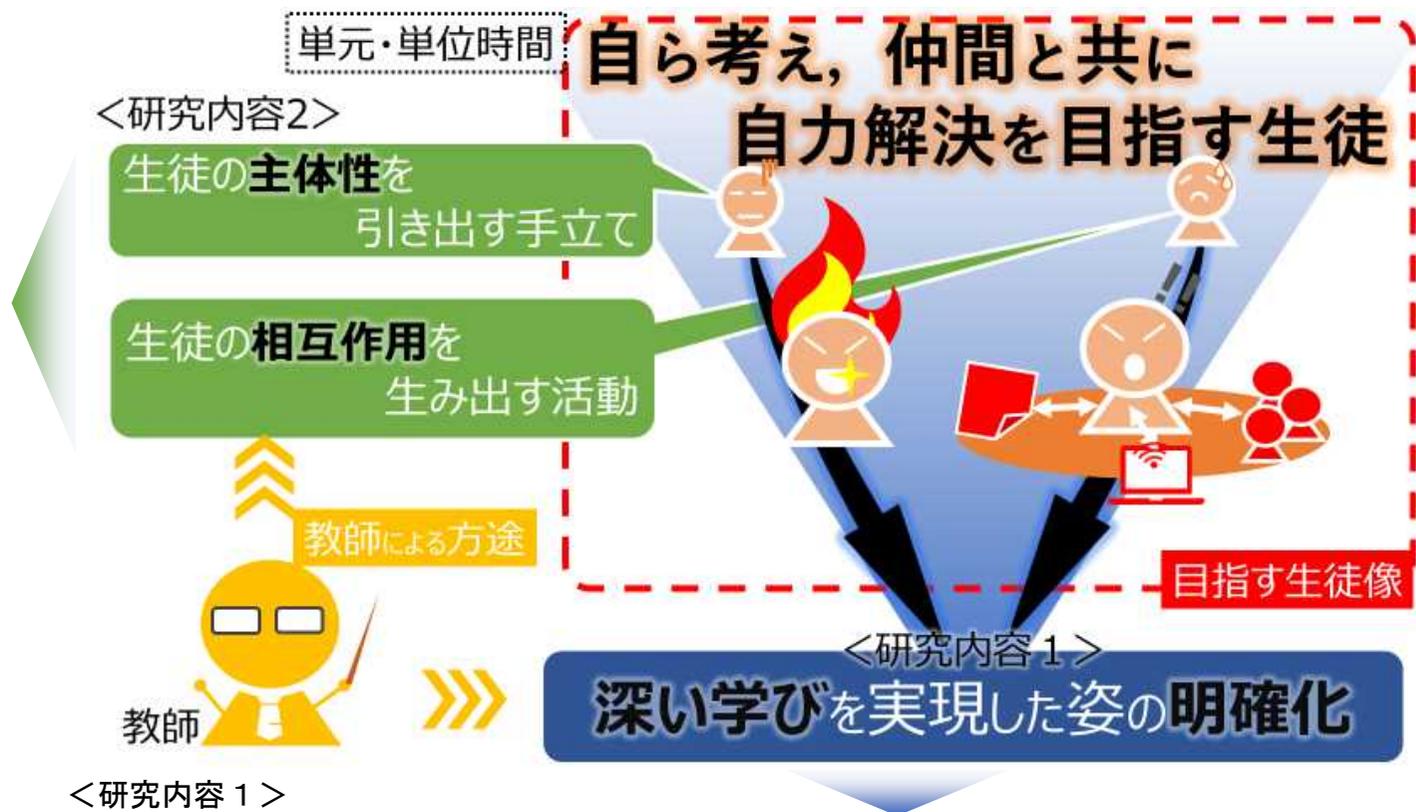
(生徒の主体性を引き出す手立て)

単元終末で「より生活しやすい学校にするための要望案を考え、町に提案する」学習活動を設定する。改善案を考える活動で終わらず、実際に町に提案する活動を設定することで、「より生活しやすい学校にすること」を自分事として学習に向かう姿が期待でき、生徒の主体性を引き出すことができると考える。また、地方自治の特色の一つである“住民の意思を強く政治に反映させる仕組み”を体感することで、主体的に行政に参加しようとする態度を養うことができると考える。

②効率と公正の視点から要望案の優先順位を付ける学習活動の設定

(生徒の相互作用を生み出す活動)

複数の要望案を「効率と公正」の視点から検討し、優先順位を付ける活動を行う。効率(より少ない費用で大きな効果はあるか→要望が通る可能性は高いか)と公正(全校にとって良いものであるか)の視点を学級全体で共有することで、一人ひとりが根拠に基づいて自分の考えを表現することができ、同じ条件で意見交換ができると考える。また、優先順位を付けることで、互いの考えの違いが可視化され、対話的な学びが生まれると考える。



<研究内容1>

本時の深い学び

揖斐川中学校をより生活しやすい学校にするための複数の要望案を「効率と公正」の視点から多面的・多角的に考察し、要望案に関わって自分たちができることを考えている。

本時の深い学びを実現した姿(具体)

「体育館に空調設備を設置すること」を要望したい。夏場は暑すぎて外でも体育館でも体育の授業が実施できず、部活動でも熱中症の心配がある。健康広場の体育館では空調設備が設置されていることから要望が通る可能性がある。また、体育館に空調設備を設置することは今後揖斐川中学校に入学する生徒のことを考えてもメリットは大きいと考える。一方で空調設備を設置することで電気代が大きくなるため、私たちも教室のエアコンや電気を無駄なく使うなど、自分たちの生活も見つめ直していきたい。

